ありがとう創刊30周年 大感謝祭号 読者還元 豪華記念企画 第一弾スタート!

購入特典 電子版無料サービス

GoodsPress

3号連続特別企画

GoodsPressを飾った
懐かしのヒット商品
1988~1997年編

グッズプレス
November 2018
TOKUMA SHOTEN
定価690円
11

Thanks!
30TH
ANNIVERSARY ISSUE

世界が称賛した!…ニッポン発の
傑作×名作モノ大全

キヤノン EOS R、新レッツノート、AI搭載ハロ、スーパーカブ C125、
グランドセイコー記念モデル、最新野球盤、進化するエコカー…and more!

日本酒器・ロックグラス・ワイングラス…秋の夜長はワンランク上の晩酌タイム
嗜みとしての酒器、入門。

トレンドのブレザーをGP流に学ぶ、着こなす、楽しむ!
洒落者に学ぶ、アメトラのお作法

取材・文／加藤亮介
写真／江藤義典
太田拓実(店舗)

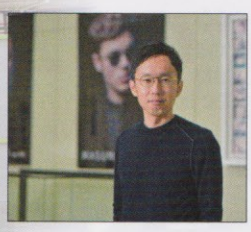
生産地①

ニッポン発の傑作モノ From JAPAN

海外ブランドが惚れる 世界的な生産現場を訪ねて。

モノづくりの聖地巡礼

福井県は鯖江市や福井市を中心に、眼鏡の国内生産シェア90%以上を誇る産地として広く知られている。しかしなぜ鯖江(福井)で栄えたのか、なぜ世界で支持されているのかまではあまり知られていない。そこで、福井の老舗の眼鏡メーカーであり、眼鏡のアカデミー賞ともいえる「SILMO Paris」で数々の受賞歴を持つ増永眼鏡を訪ねた。



増永眼鏡
専務取締役
増永泰典さん

経営やマーケティングだけでなく、商品開発などのクリエーションにも深く関わる同社の若きリーダー。欧米やアジアなど、世界中を飛び回る多忙な毎日を過ごす

地方創生。眼鏡産業で世界的に知られる〝鯖江〟も、100年以上前にその成功を収めたモデルケースといえる。

「福井市に本社がある弊社にとって、眼鏡産業は、鯖江だけでなく、福井県の産業として認知していただきたいんですけどね」

そう語るのは、増永眼鏡の専務取締役、増永泰典さん。同社は1905年に福井県の眼鏡産業を興した増永 五左衛門が創業した福井県の最古参メーカーである。

「福井は農村地帯。長男は家や田畑を継げますが、次男坊や三男坊は、仕事を探して大都市へ流出してしまう。五左衛門は、そうした過疎化を防ぐ地方創生として産業を興そうとしたんです。豪雪地帯における農閑期の副業も必要でした」

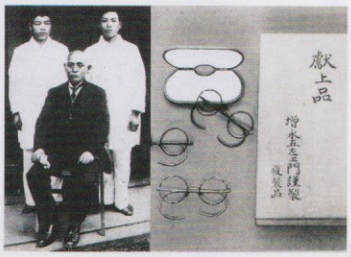
五左衛門の弟、次男の幸八も、ご多分に漏れず、大阪に出て仕事をしていた。その奉公先が眼鏡関連。それを契機に、五左衛門は眼鏡産業に乗り出す。

増永眼鏡創業者にして、"福井眼鏡産業の父"増永五左衛門は、教育者でもあり、実業家でもあった

「眼鏡産業を興すといっても人が集まらず、地縁や血縁を辿って集めた少人数でスタートするような有様だったそうです」

当初の福井県産のクオリティは拙いものだったが、様々な努力を重ねた結果、1911年には内国勧業博覧会で評価を受け、1933年には昭和天皇への献上品を謹製するまでに向上した。

「品質向上の背景には〝帳場制〟もありました。グループごとに眼鏡を製造し、自分たちで品評会をして競うという制度です。やがて各帳場が得意分野で専業



昭和天皇への献上品も謹製(1933年製)。20金製リムにセルロイドを精巧に巻いた"セル巻き"は現在でも劣化なく保存されている

増永五左衛門が採用した帳場制。眼鏡の製造においてグループごとに切磋琢磨することにより、全体の品質を向上させた

めがねミュージアム
㊟ 福井県鯖江市新横江2-3-4 めがね会館
㊐ 10:00 ～ 19:00(一部17:00まで)
㊡ 年末年始

福井県（鯖江）の眼鏡

1970年大阪万博のタイムカプセルの中に入れられた『増永眼鏡 カスタム72』を復刻。折からのクラシックブームにも後押しされ、自社アーカイブシリーズ「光輝」の人気火付け役となった。無骨なまでのボリューム感が魅力的

MASUNAGA
光輝 000
2万7000円

MASUNAGA
since 1905 NY LIFE
5万9400円

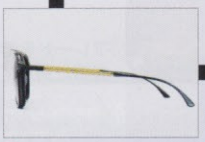
通常はプラスチック製のブロウパーツにチタンを採用したメタル×メタルのサーモント風。ブロウ正面の面取りのみシャイン仕上げにすることでハイライトを入れ、陰影を深めている。技術力を駆使した“ジャパン・デザイン”の典型例

技術に裏打ちされたデザインの妙

MASUNAGA
GMS-106
4万3200円

レギュラーコレクション初のシルモドール金賞受賞モデル。長手モダン、いち山風の鼻あて付きブリッジと、クラシカルな意匠を採用しつつ、現代的なイメージに仕上げている。テンプルの緩衝効果の高さなど機能性にも優れている

2015 「MASUNAGA GMS-106」がオプティカル部門にて金賞を受賞



2014 「MASUNAGA desgined by Kenzo Takada」がサングラス部門で金賞を受賞

2013 「MASUNAGA G.M.S. 2013 Limited」が審査員特別賞を受賞

2000 「Kazuo Kawasaki MP-690」がサングラス部門で金賞を受賞

SILMO Paris 受賞歴

企業として独立し、地場産業へと成長していきました。鯖江市に眼鏡メーカーが多いのも帳場制の名残で、鯖江出身のUターン起業が多かったからです。また製造の傍ら夜間学校も開き、独立を支援しました」

1960年代以降、福井県産の品質は世界的に高く評価されていく。当時はクオリティを重視されていたが、この5年程でジャパン・デザインの評価も急上昇中である。

「毎年パリで開催されるシルモ展で、金賞をいただきました。品質に裏打ちされたプロダクトとしてのデザインが評価されたものと受け止めています」

ほかにも、ファクトリー900やイエローズプラスなど、福井県産をバックボーンとする国産ブランドが海外で評価されている。福井の高い製造技術により、デザイン、ディテール、質感などで、独自の個性を表現している。〝良い眼鏡を作るものとする〟という五左衛門のモットーは、100年以上経った現在でも健在なのだ。

東京・北青山のアンテナショップ

MASUNAGA 1905 青山店

住 東京都港区北青山2-12-34
営 11:00～20:00
休 第1・第3火曜日

増永眼鏡最初の直営店として2002年にオープンした旗艦店。2017年にはトラフ建築設計事務所により、店舗空間全体をリニューアルしている